













○事故報告

1. 月別件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	4	4	2	1	4	2	1	2	1	3	1	6	31

2. 部署別件数

児童	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
放課後	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	2	8
キャリアポ	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	5
生活	1	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	7
相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就労	2	0	0	0	3	1	0	1	0	1	1	0	9
就・生	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

3. 分類別件数

転倒	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
転落	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
熱傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
誤嚥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
暴力	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	6
物損	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	6
その他	2	3	1	0	2	1	1	1	1	1	0	3	16

その他内訳 紛失3件、一人外出1件、情報管理1件、連絡調整2件、危険行為1件、車輛関係8件

4. 主な内容、分析

上半期17件、下半期14件、年間件数31件

下半期件数内訳

発達児童 1 その他1(危険行為、窓の柵に足を掛ける)

発達放課後 8 暴力3、転落1、その他4(車輛と停止車輛(物)の接触3、一人外出等)

キャリア 5 転倒1、熱傷1、その他3(利用者SNSによる個人情報、紛失、送迎漏れ)

生活 7 物損3、暴力1、その他3(車輛と停止車輛(物)の接触等3)

相談 0

就労 9 物損3、暴力2、その他4(紛失2、車輛と物の接触、会議連絡忘れ)

終業・生活 1 その他1(車輛、接触事故)

・年間件数31件の内、8件が車輛を運転時の事故と約4分の1を占めていました。個々の運転時の安全意識、また部署、部会においても啓発を常に続けていきます。

・発生した事故に関しては一つ一つ事故報告書として作成することで、発生状況、要因暫定対策等を確認し、リスクマネジメント部会にて定期的な見直し、恒久対策までの確認を行いました。

令和元年度		業務報告		社会福祉法人ともいき会																													
部会名		人材部会																															
メンバー		高久裕子、堀内沙希、丑山数基																															
業務目的		<p>○障害福祉サービスの質の向上に向けて、法人としての業務状況を常に把握検証し、適正な業務運営を進めます。</p> <p>○法人職員の研修事業を中心とし、質の向上のために要求されるスキルを身につけると共に利用者や法人に貢献できるようスタッフの育成を目指していきます。</p>																															
業務 実 施 内 容	<p><b>【職員研修】</b>            ①7月5日(金)、②10月11日(金)、③12月6日(金)、④1月24日(金)            ＊今年度は、部会主導の研修内容が更に充実しており、より身近に実践検証しやすく日々支援する中で、部署ごとに話し合われる機会が増えた。            ・水曜日開催から金曜日開催にしたことで、出席しやすくなったという意見もある反面、勤務時間内の開催を希望する声もある。</p> <p><b>【新人職員OJTについて】</b> 7月8日～25日 4名職員実施            ・事前の打ち合わせを行うことで目的を持ってスムーズに参加する事ができた。            ・前期と後期の2回に分けて実施を検討したが、中途採用の方の実施、未実施の把握が煩雑になりやすいこと、後期の受け入れの日程調整等が難しいため前期のみとした。</p> <p><b>【派遣研修・法人内研修・新人研修】</b>            ・東京開催の就労支援フォーラムに部署に関係なく3名の職員が参加。            ・法人内研修では、2月14日にJSN(大阪)の池田氏、屋敷氏をお招きし、支援や障害について研修を実施。            ・新人研修は、流動的に実施。(基本は前期・後期)</p> <p>○来年度に向けて            ・参加しやすい職員研修になるよう各部署管理者に意見を伺い、日程調整を行う。(勤務時間内、平日の夜、曜日等)            ・法人全体の研修として外部講師を招いての研修を企画する。(勤務時間内や土曜日に行う)            ・管理者又は中堅職員による県外視察等を企画する。            ・外部研修に参加しやすいように必用に応じて掲示や案内の作成を行う。            ・復命書の書式を見直す。</p>																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>取り組み</th> <th>月</th> <th>取り組み</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>部会の目的、業務内容の確認 研修把握</td> <td>10月</td> <td>第2回職員研修、新人研修</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>職員OJT研修計画</td> <td>11月</td> <td>職員面談</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>職員OJT研修計画、調整、職員面談</td> <td>12月</td> <td>第3回職員研修</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>第1回職員研修 職員OJT研修</td> <td>1月</td> <td>第4回職員研修</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>中間まとめ</td> <td>2月</td> <td>職員面談、新人研修 次年度部会活動計画の作成</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>職員研修計画</td> <td>3月</td> <td>職員全体会議</td> </tr> </tbody> </table>						月	取り組み	月	取り組み	4月	部会の目的、業務内容の確認 研修把握	10月	第2回職員研修、新人研修	5月	職員OJT研修計画	11月	職員面談	6月	職員OJT研修計画、調整、職員面談	12月	第3回職員研修	7月	第1回職員研修 職員OJT研修	1月	第4回職員研修	8月	中間まとめ	2月	職員面談、新人研修 次年度部会活動計画の作成	9月	職員研修計画	3月
月	取り組み	月	取り組み																														
4月	部会の目的、業務内容の確認 研修把握	10月	第2回職員研修、新人研修																														
5月	職員OJT研修計画	11月	職員面談																														
6月	職員OJT研修計画、調整、職員面談	12月	第3回職員研修																														
7月	第1回職員研修 職員OJT研修	1月	第4回職員研修																														
8月	中間まとめ	2月	職員面談、新人研修 次年度部会活動計画の作成																														
9月	職員研修計画	3月	職員全体会議																														
年 間 取 組																																	



## 研修の状況

### ○外部研修

月	人数	内 容	人数	内 容
5月	1人	就業支援担当者研修(ナカポツ)	1人	訪問型・企業在籍型支援スキル向上研修
6月	1人	福岡塾2019(巡回訪問支援とは)	1人	障がい福祉サービス従事者新人研修
	1人	行動援護従業者養成研修(強度)	3人	なぜ起こる?問題行動
	1人	支援技法活用セミナー(GATBについて)	7人	長野県就業生活支援センター連絡協議会研修会
7月	3人	精神保健福祉担当者基礎研修会	1人	福岡塾2019観察カンファレンス実践研修
8月	1人	福岡塾2019観察カンファレンス実践研修	1人	JC-NETジョブブーチ養成研修in新潟
9月	1人	福岡塾2019実践を通して(講義)	1人	JC-NETジョブブーチ養成研修in東京
	6人	適切な支援と放課後デイサービスの質の向上について		
10月	2人	第4回企業懇談会 すべての企業で障がい者雇用を	2人	福岡塾2019プラス
	2人	令和元年度サビ管・児発管更新研修	1人	清掃作業従事者研修
	1人	強度行動障害支援者養成研修		
11月	1人	就業リハビリテーション研修・実践発表会	1人	就業・生活支援センター南関東ブロック経験交流会議
	1人	発達障がいのある方への支援の引き出しを増やそう		
12月	3人	就労支援フォーラムNIPPON2019		
1月	1人	就業・生活支援センター全国フォーラム	1人	精神・発達しごとサポート養成講座
2月	1人	主任職場定着支援担当者経験交流会	3人	地域発達支援研修会

### ○内部研修

( 計 50名 )

6月	全職員	職員面談 ①		
7月	全職員	全体研修『法人理念から権利擁護を考える』	4人	法人内OJT研修
10月	全職員	全体研修『AED使用方法・事故対応』	3人	新人研修 ①
11月	全職員	職員面談 ②		
12月	全職員	全体研修『事故発生時フローチャート作成』		
1月	全職員	全体研修『一年の振り返り』	5人	新人研修 ②
2月	全職員	外部講師全体研修『JSNによる勉強会』	全職員	職員面談 ③

・外部研修は28研修50名(うち県外8研修(昨年比+4))の職員を派遣しました。毎年、定番の研修に加え、県外開催のフォーラムに中堅職員を派遣しました。また、今年度の特徴としては、各部署より積極的な研修希望が見られました。研修報告は全て復命書を作成し、部署内で回覧や伝達を実施しています。

・外部講師としてNPO法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク(JSN)より池田浩之氏をお招きし、①支援員向け研修『精神障害、発達障害のある方への支援について』、②管理者向け研修『相手の話を聴く』と題し研修を開催しました。専門的な内容ですが、具体的かつ分かりやすい講義であったと職員から感想が挙がりました。

・内部研修は11研修実施しました。年4回計画している全体研修は水曜19時開催を金曜19時開催に変更し、出来るだけ多くの職員が出席できるよう工夫した結果、職員の8割弱の出席率となりました。内容については各部会を中心に年々回を重ねる毎にテーマに深みが出ており、部会間で身近なテーマを共有し内容を繋げていくことで、職員も日々の支援の中でより意識していくことができました。

令和元年度 社会福祉法人ともいき会 ウィズ発達支援センター・児童発達支援 年度末事業報告

1	事業目的	○就学前児童の支援を行います。個別の活動、集団生活における体験を通じ、将来の社会生活で大切なことを学び、実践できるような支援をおこなっていきます。そのために、一人ひとりの得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。また、たくさんの経験を積み、「はたらく」大人を目指して、人を大切に支援をしていく事を目的とします。	
2	事業内容	障害児通所支援	○児童発達支援
3	事業概要	児童発達 定員10人 開設時間平日9:00～18:00 サービス提供時間9:00～15:00	
4	職員体制	児童発達支援管理責任者1名、保育士2名、指導員4名	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	一人一人の得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。	○保護者のニーズに合わせて、日々の様子を観察し、共有・考察をしながら支援を行いました。 ○朝の会の個別課題での取り組みを評価し次回の課題へと繋げました。 ○朝の会や活動・遊びを展開するなかで、様々な経験を積み重ねました。	随時
		○個別支援計画に基づいた支援を行い、月ごとの様子を記録しモニタリングを行いました。また、ケース検討を行うことで、スタッフ間の情報共有、支援の内容・方法の見直し、再評価を行いました。	6ヶ月毎
		○保育園・幼稚園の定期的な訪問、リハビリ見学、保護者参観・面談を行い、個々の発達に応じた療育、苦手な課題にも取り組みました。	随時
	将来「はたらく」を目標に、活動内容を充実していきます。	○今年度より、年齢や発達、活動量により2グループに分かれた活動場所の選定や、時間の配慮を行いました。 ○少人数での遊びやルールのある遊びのなかで、順番や簡単なルール等を学びました。	通年
		○公共の場でのマナーや交通ルールを学んだり、社会体験を積むことができるよう、季節に合わせた活動や交流を計画・実施し「自分で出来た!」という自信や成功体験を育みました。 ○市民プール・流しそうめん・アート活動・お仕事体験・豆まき等、放課後等デイサービスや生活支援センターの利用者との交流を図りました。 ○ウィズ・フェスタの実施、南条地区のお祭りに出向き、地域の方との交流を行いました。 4月:お花見(小遠足) 5月:水遊び 6月:水遊び・避難訓練 7月:プール遊び・市民プール・流しそうめん 8月:プール遊び・流しそうめん 9月:遠足 10月:ハロウィン(ボランティアさんによるマジック) 11月:りんご狩り・避難訓練 12月:クリスマス会・食育活動(おにぎり作り)・大掃除 1月:初詣 2月:豆まき・南条地区のお祭り参加 3月:ハイキング	通年

		<p>〈年間を通して〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>:外出学習 (茶臼山動物園・外食・公共交通機関の利用等)</li> <li>:買い物学習</li> <li>:ハーモニー桃の郷・けいあいフレンズ</li> <li>:アート活動</li> </ul>	
1	保護者、関係機関との連携を強化します。	○保護者との面談や参観、送迎時や電話による連絡を行い、情報共有しながら支援を行いました。	随時
		○保育園・幼稚園訪問、支援会議、リハビリ見学を行い、情報を共有したり支援の手立てとして役立つことが出来ました。	随時
		○支援会議や自立支援協議会(こども部会)、地域発達支援会議に参加し、情報交換やチーム支援を行いました。	随時
		○特別支援学校の先生を招き、児童発達全保護者を対象に就学説明会を行いました。	6月
		○児童発達全保護者を対象に保護者会を開催し、保護者同士の交流の輪を広げました。保護者の集いの時期が重なってしまうため、来年度は4月～5月に開催する予定です。	12月
		○年長児の保護者を対象に、放課後等デイサービスの説明会を行いました。	1月
2	職員の支援技術の向上を目指します。	○1か月の記録をもとにミーティングを行い、情報や課題の共有、支援方法の検討を行いました。また、モニタリングや個別支援計画の作成をスタッフ全員が行い、支援技術の向上に努めました。	部署 (月2回)
		○ヒヤリハット・事故報告書の作成を行い、状況確認と検討、月1回のチェックシートでの振り返りを行い、再発防止を図りました。	随時
		○活動先の配慮点や気付きを記録し、随時、検討や見直しを行いました。	通年
		○外部研修への参加をしました。 ・幼保小園連絡会・地域発達支援会議・福岡塾・福岡塾プラス・地域発達支援研修・学校説明会・自立支援協議会(こども部会)	随時
2	新規利用者に来て頂けるような活動を展開します。	○児童発達支援事業のパンフレットを関係機関に配布・補充し、当センターを知ってもらい、必要と思われるご家庭への配布や設置をお願いしました。	随時
		○新規利用に繋がるよう、保健センター・療育コーディネーター等、関係機関と情報交換をしました。	随時
		○ホームページで自己評価表・保護者アンケートの掲載を行いました。活動の様子などの進捗情報が掲載できなかったため、来年度の課題とします。	随時
2	地域の方々に知っていただけるよう発信をしていきます。	○地域の方々、利用者・利用者家族が楽しむことのできるイベント「ウィズ・フェスタ 2019」を企画・実施。利用者・家族・地域の方々と交流することが出来ました。	随時

(発達別紙)

## 1. 利用状況

### 児童発達支援

		登録者数	未満児	年少児	年中児	年長児	新規利用者数	延利用者数	稼働率
H29	年度	27	2	7	10	8	2	2039	84.5%
H30	年度	27	3	6	7	11	7	2024	84.2%
R01	上半期	21	3	5	6	7	3	863	72.0%
	下半期	24	5	4	6	6	6	939	78.0%
	年度	22	5	4	6	6	9	1802	75.0%

### ○分析

○利用児童、3月現在22名の登録。県外へ転居、保育園への完全移行が出来た児童が2名おり、3名減。保育園・幼稚園の入園申し込みが始まる10月あたりから見学・体験希望者が増加傾向にあり、今年度は9名が利用に繋がりました。園行事・リハビリ・感染症等で欠席する児童も依然として多く、振り替えをして利用回数を補っていますが稼働率は減少傾向にあります。また、千曲市に児童発達支援事業所が複数できたことで千曲市在住の利用児童が減少しており、今年度の新規利用者は2名となりました。療育コーディネーター・保健師等と連携し、長野市内を中心に新規利用者獲得のための宣伝活動がさらに必要となってくると思われれます。

○昨年度に引き続き、保育園・幼稚園・保健センター・医療機関・行政等を訪問し、宣伝用のパンフレットを配布したり、ホームページでの宣伝も始め、利用者確保に繋がっています。療育コーディネーター、相談員と情報交換も、今後継続していく予定です。

## 2. 連携

		支援会議	家庭訪問	関係先訪問	保育園・幼稚園移行
H29	年度	63	6	29	3
H30	年度	43	6	47	5
R01	上半期	31	7	25	4
	下半期	31	1	10	1
	年度	62	8	35	5

### 連携先

・福祉(市委託相談員、療育コーディネーター、教育(各幼稚園・保育園、各特別支援学校、各学校、教育センター)、医療(稲荷山医療福祉センター、竹重病院、長野日赤、長野中央病院、長野市民病院、各保健センター)、行政(市町村健康福祉部、保健所、こども未来部、中央児童相談所)、その他(保護者等)

### ○分析

○療育コーディネーター・保健師からの紹介で利用に繋がるケースが主となっています。園と併用している方には園訪問・関係者会議を行うことで連携を図り、就園を希望されている保護者の方には情報提供をしています。また、医療機関でのリハビリを行っている方に関してはOT・STの様子を見学させていただき、支援の参考にさせていただいています。

○関係機関と連携を図りながら、保護者の方の願いである幼稚園・保育園への移行を目指し、R元年度は完全移行のお子さん2名を含む、5名の児童が保育園への移行をすることが出来ました。週1～5回の登園と児童によって利用の頻度は様々ですが、児童の様子を観察しながら完全移行を目指していきます。

令和元年度 社会福祉法人ともいき会 ウィズ発達支援センター・放課後等デイサービス 年度末事業報告

1	事業目的	将来の「はたらく」大人を目指して、社会体験や、自立した生活を送れるための機会を提供し、自分で選択、実現できる力を伸ばせるような活動を実施していきます。また、集団での生活や遊びの中で、人と人との関わりを大切にしながら、自分の思いを整理して伝えたり、相手を思いやることができる力を育めるような支援をしていきます。	
2	事業内容	障害児通所支援	○放課後等デイサービス
		地域生活支援事業	○移動支援、タイムケア、自立サポート
3	事業概要	放課後等デイサービス 定員10人 開設時間平日8:30～18:00 サービス提供時間15:00～18:00(放課後時間に合わせて) 休日8:30～18:00 サービス提供時間9:00～15:00(休みに合わせて) 移動支援・タイムケア・自立サポート	
4	職員体制	放課後等 児童発達支援管理責任者1人、指導員3人、(うち常勤は1人) 地域生活支援事業 指導員等10人(非常勤職員含)	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	利用者・家族の想いを聞かせていただき、一人ひとりのニーズに寄り添った支援をしていきます。	○利用者・家族の想いを聞きながら、遊びや、個別目標等の活動を通じて一人ひとりのニーズに合わせた支援を行いました。 ・特にパニック時等の気持ちの整理や折り合いをつける力についての相談が多く聞かれました。	通年
		○学校や家庭、他機関等からアセスメントを行い、個別支援計画に基づいた支援を行う事で、支援内容の統一を図りました。また、新たな可能性や目標、継続の必要性から計画の見直しを行いました。	通年
		○ご本人の様子や日々の記録を基に、定期的なモニタリングを実施し、家族の方に確認をしていただきました。 ・日々の支援の気づきや成長をお伝えしました。	6ヶ月毎
1	将来の「はたらく」大人を目指して、活動内容を充実していきます。	○日常生活の中でのあいさつやお手伝い、整容等基本的な動きが習慣としてできるように支援しました。	通年
		○人との関わりや、出来る力を伸ばせるように、曜日や季節に合わせ、個別・集団活動を設定しました。 ・特に地域のお祭りに参加を目指し、季節感や地域の雰囲気学ぶ活動を取り入れました。	通年
		○季節に合わせた行事を計画し、その中で社会性やルール、金銭のやりとり等を学べる機会となるような活動を実施しました。 ・〈児童〉5月サンマリン長野、6月いちご狩り、7月戸隠からくり屋敷、8月バーベキュー、9月マルコメ味噌美麻高原蔵(味噌作り体験)10月うみがたり、11ディズニーランド、12月クリスマス会、1月初詣(真田神社)、2月ボーリング大会	通年
		・〈大人〉大人の方を対象に、毎週水曜に夕方の余暇を楽しむ活動を実施しました。 マクドナルド、ゲームセンター、ボーリング、忘年会等。	通年
		○生活支援センターと連携し就労体験を実施しました(アパート清掃、納品、内職)。	9月
		○ウィズフェスタ2019にて魚釣りコーナーの景品作りを利用者中心に行いました。	11月

1	保護者、関係機関との連携を強化します。	○保護者や学校、他事業所と送迎時や電話にて、利用時の場面や家庭等での様子の情報交換・共有を行い、保護者や利用者の思いを確認しながら支援を行いました。	随時
		○自立支援協議会(長野市子ども部会)・放課後等事業所連絡会へ参加し課題の検討や情報交換を行いました。	通年
		○関係者・支援会議に参加し、日々の課題や可能性を共有しながら、統一した支援に向けて検討、連携を行いました。	随時
		○児童発達、年長児の保護者を対象に、放課後等デイサービスの説明会を実施しました。	1月
2	職員の支援技術の向上を目指します。	○部署内でミーティングを行い、日々の支援や支援会議、個別支援計画等から、支援方法や課題の共有・考察・検討を行い、支援技術の向上に努めました。	月2回
		○ヒヤリハット・事故報告書等の作成を行い、状況確認と検討、再発防止に向けて必要に応じてモニタリングを実施しました。内容等はミーティング等で議題にし、意識付けを行いました。	随時
		○法人内の部会・研修や外部研修への参加を行い、支援技術や意識の向上を図りました。 ・行動援護従事者養成研修・虐待防止及び権利擁護研修・就労支援フォーラム	随時
2	新規利用者に来ていただけるような活動を展開します。	○相談支援専門員等と連絡を取りながら、空き状況の発信や希望者の見学を随時行いました。 ・主に土曜日について発信を行い、2名の新規利用に繋がりました。	随時
		○保護者への自己評価表のアンケートの配布、回収を行い、事業者の自己評価も併せてホームページへ掲載しました。 ・保護者からのご意見を基に部署内で検討後、お便りに活動報告(防災訓練等)の掲載を行いました。	6月～2月

## 1. 利用状況

		登録者数	小学生	中学生	高校生	新規利用者数	延べ人数	稼働率	大人登録者数
H29	年度	40	19	7	14	7	2812	96.1%	34
H30	年度	41	22	8	11	6	2602	89.5%	35
R01	上半期	44	23	9	12	6	1386	91.1%	34
	下半期	46	25	9	12	2	1258	83.3%	34
	年度	46	25	9	12	8	2644	87.3%	34

## 2. 月別利用者

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日		26	27	25	27	22	25	26	26	24	24	25	26
延べ人数		227	234	233	257	204	231	228	239	209	195	206	181
大人利用者		174	180	176	178	150	166	155	172	152	138	159	165
稼働率		87%	87%	93%	95%	93%	92%	88%	92%	87%	81%	82%	70%

※定員10名

## 3. 利用学校別

		養護学校	地域小学校	地域中学校	中間教室	地域高等学校
H29	年度	3	3	1	0	0
H30	年度	3	4	1	1	0
R01	年度	3	4	1	1	0

## ○分析

○4月より、計4名、年度途中より2名の計6名(1名利用終了)が新規利用を開始しています。平日に関しては、新年度開始当初より定員の10名を超える利用がみられていました。土曜日に関しては、登録は10名を超えているものの、お休みや、他事業所利用等で6名程度の利用の日が見られています。年度途中からの2名の利用の方は土曜日の利用となっています。

○地域の小中学校からの利用希望も多く、地域校(中間教室含む)は、6校へ送迎を行っています。来年度、長野養護学校利用者が卒業後は、利用希望を勘案しながら他の地域校への送迎も積極的に行っていきたいと考えています。また、課題としては送迎校数の増加や各学年の下校時刻の違いによりお迎えが毎年変動し調整が難しくなることが想定されています。

○3月2日より新型コロナウイルスの影響により、学校が臨時休校となりました。平日に関しては、夕方の通常開所としました。稲荷山・長野養護学校については、必要な家庭については日中の受け入れを行った為、そのままの夕方利用が可能となりましたが、地域校については、お休みとなる方も多くみられました。春季休暇については、朝からの通常開所を行いました。春休み前までのキャンセルにより、稼働率の減少がみられています。

○今年度、ウィズ放課後を卒業した方で、ウィズ生活介護から大人のサービスを利用した方は1名でした。今後も平日夕方の利用は受け入れを行っていく予定ですが、今後の増加も予測され、サービス量、サービス形態等も課題となっています。

## 4. 連携

		支援会議	関係先訪問
H29	年度	51	18
H30	年度	48	12
R01	上半期	23	11
	下半期	28	7
	年度	51	18

## 連携先

・福祉(市委託相談員、療育コーディネーター、児童相談所、相談支援事業所、長野市ボランティアセンター、他サービス事業所)、教育(各特別支援学校、各地域の小中学校、中間教室)、医療(稲荷山医療福祉センター、竹重病院、長野日赤、長野市民病院、栗田病院、篠ノ井橋病院、千曲荘病院)、行政(市町村健康福祉部、こども未来部等)、その他(保護者、親戚)

## ○分析

○利用については、児童発達での説明会、相談支援専門員や学校、保護者の方からの問い合わせにより、見学や体験、実際の利用に繋がっています。今後も継続的に情報交換を行い、事業所の特徴や、空き情報等の発信を行っていきます。

○各学校における支援会議は日常的なものになりつつあり、学校・家庭・事業所間での共通した支援方法の検討がなされるようになってきました。また、相談支援の更新時期やモニタリングの際にも関係者会議が開かれ、本人の様子や検討事項、事業所利用等について確認、共有をしています。また、学校で開催される会議は、就学時間後の開催も多く、支援と重なってしまう為、出席が出来ない現状も課題となっています。

○3月には、新型コロナウイルスの影響により各種会議の中止が多くみられました。相談支援専門員に文章による提出や、電話での情報共有がなされるケースが増加しています。

○各年齢で相談内容は様々ですが、関係機関で役割分担をしながら、安心して事業所利用、学校生活、家庭生活を送れることを目標に支援に取り組んでいます。

1	事業目的	「大人になったらはたらこう」の理念のもと、将来自信をもって社会人になることを目指します。そのために、学齢期の自信をもとに自己理解を深め、一人ひとりの自己実現に向けて主体的に自己決定ができるよう、キャリア発達支援をしていきます		
2	事業内容	障害児通所支援	○放課後等デイサービス	
3	事業概要	定員10人 平日 開所時間 10:00～19:00 サービス提供時間 13:00～19:00 土曜・長期休暇 開所時間 9:00～18:00 サービス提供時間 10:00～16:00		
4	職員体制	児童発達支援管理責任者1人、指導員2人		
5	事業報告			

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	(利用に当たり) 利用者一人ひとりの想いを傾聴し、目標を明確にした利用ができるよう、サービスを提供します。	○利用前に、具体的にどのような力を付けていきたいのか、本人及び保護者の方と面談をし、目標の設定を行いました。	利用開始時
		○利用者全員の定期的なモニタリングを実施し、書式で保護者への確認を行いました。	利用から半年ごと
1	(生活スキルの向上) 利用者が自分らしく自信を持って生活していくために、出来ることを増やす支援をします。	○活動の中で、役割を持ってもらうことや一緒に同じ目標を達成すること、喜びを分かち合うことで、楽しく自分に自信が持てる活動を実施しました。	随時
		○これまで個別中心であった利用者にも、屋外活動や集団ゲーム等参加しやすいプログラムを作り、一緒に参加してもらえる機会を提供しました。	随時
1	(「働く」意欲の向上) 将来、「働くことがイメージできる」支援を提供します。	○毎週木曜日と月に1回土曜日に、高校生向けの講座を開催し、「働くことに向けて」に特化した講座を開催しました。	随時
		○集団ではなく、一人ひとりに実習希望をアンケートを取り、短期トレーニングを活用し、企業での実習を実施しました。	9月
		○新しい企業への見学を実施しました。見学先で、どのような仕事をしているのか説明をしてもらうことにより、小中学生でもイメージができる体験を提供しました。	夏休み 春休み
2	新規利用者の確保及び、登録者1人当たりの利用日数を増やしていけるよう活動を展開します。	○年間の新規利用者数は13名でした。紹介先として、長野市療育コーディネーターや千曲市相談員、須坂市相談員、学校、長野市相談支援専門員、保護者からの紹介がありました。	随時
		○利用者からの意見を聞き、参加したくなるプログラムを作成し、利用日数の増加に努めました。土曜日の利用者数が増加傾向となりました。	随時
		○12月に保護者に向けて事業評価表を発送し、11名の方よりご回答を頂きました。2月に法人HPにて公表を実施しました。	2月



2	職員の支援技術及び資質の向上に勤めます。	○資質向上を目的とした、権利擁護・虐待防止に関する研修に参加しました。	9月
		○支援会議・事業所連絡会への積極的な参加をし、他事業所との意見交換及び連携を深めることに努めました。	随時
		○講座の内容ごとに担当を決め、資料作成を行いました。当日、資料作成したスタッフが不在でも他のスタッフが講座を実施できるよう連携に努めました。	毎日
2	保護者・関係機関との連携を強化します。	○利用者全員に連絡ノートを配布し、本人自身による活動の振り返りと、保護者との連絡を取ることを目的とし、内容をお伝えするとともに、連携に努めました。	随時
		○福祉の支援会議だけでなく、学校及び医療機関を含めた会議にも参加をさせていただき、統一した支援が行えるよう努めました。	随時

(キャリアサポートセンター別紙)

1. 利用状況

放課後等デイ

		新規登録者数	登録者数	平均稼働率
R01	上半期	8	36	46.0%
	下半期	5	38	55.7%
	計	13		50.8%

登録者内訳

小学生	中学生	高校生
5	14	17
5	15	18

※定員10人

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登録者数	29	30	30	33	35	36	37	38	40	40	40	38	
開所日	25	24	25	26	22	23	25	25	25	22	23	25	290
延人数 平日・休日	60 24	85 18	74 30	72 48	25 107	94 26	108 26	99 27	117 43	94 36	90 44	8 115	926 544
稼働率	34%	43%	42%	46%	60%	51%	54%	50%	64%	59%	58%	49%	

○分析

○年度末登録者数38名。新規登録者数13名。年度途中サービス利用中止4名。  
 新規利用者の紹介経路として、療育コーディネーター、病院、相談機関、学校、保護者からの紹介が主でした。利用には繋がらなかった方も含めて、32名の方に見学に来ていただきました。利用に繋がらなかった主な理由としては、送迎が必要な方で、希望曜日には現状として送迎が難しいことや、土曜日だけの希望であることが挙げられました。その他、不登校ケースでは、保護者のみの見学で、本人は家から出ることが難しいケースが多く、見学のみで体験に繋がらないことが多くありました。体験まで実施できた方は17名で、そのうち13名が利用に繋がりました。  
 見学者の数として、6月から11月までが多い傾向にありました。学校生活に慣れ、夏休みで利用希望での見学が増えていったと思われます。  
 年度途中でのサービス利用停止は、1名が東信への引越し、2名が学校を自主退学、1名が普通学校にて問題なく学校生活を送れているためにサービスの利用が停止となりました。  
 ○下半期にかけ、土曜日の稼働率が上がってきました。理由として、利用者からの意見を吸い上げ、活動に組み込むことによって、参加を希望される方が増えていきました。主に、カラオケ、ボーリング等の外出活動が増えてきました。反面、保護者より、もっと講座をやってほしいとの意見も挙がりました。  
 ○平日の曜日別では、月火の利用者が少ない傾向にありました。反面、土曜日は行事によっては断ることも数回ありました。他の事業所の兼ね合いもありますが、利用日を振り分けていくことも課題だと感じました。  
 ○3月の春休みは、コロナウィルスの影響で、自粛キャンセルが多くなり、来年度以降も課題となると思われます。

3. 連携

連携先

		支援会議
R01	上半期	32
	下半期	33
	年度	65

※教育機関(各特別支援学校、各地域校) ※医療機関(竹重病院、東口メンタルクリニック) ※福祉(市委託相談員、療育コーディネーター、各相談支援事業所、各サービス事業所) ※行政 ※その他(職業センター、合同会社西友高田店)

○分析

○可能な限り普通学校での支援会議にも参加をし、連携を図れるよう務めました。以前より、学校と福祉での合同での支援会議が増えてきました。  
 ○長野市の放課後等デイサービス事業所の事業所連絡会への参加をし、情報交換やディスカッションを通して、関係性を深め、連携の強化に努めました。  
 ○3月は、会議も自粛となり、新規利用の会議2件、養護学校への移行支援会議1件の3件のみでした。  
 ○課題として、月に1、2回の方や年に数回しか利用がない方でも、モニタリング作成及び支援会議への出席をしているが、場合によっては前回会議から1度も利用がないまま作成及び会議への参加となることもありました。支援の方向性の統一のために情報共有は必要だと思われませんが、同時にもう少し利用していただけるようお願いしていければ良いと思いました。

1	事業目的	利用者一人一人の「はたらく」「くらす」を実現していけるよう、日々の生活の中で自信を持つ事が出来るよう支援をしていきます。「はたらく」それぞれの出来る力に合わせ作業に取り組む時間を設けていきます。「くらす」創作活動・音楽活動・余暇活動・体力作り等、様々な活動を実施していきます。また社会とのつながり等も大切に活動を行います。	
2	事業内容	障害福祉サービス	生活介護事業
3	事業概要	生活介護 定員20名 開設時間平日9:00～18:00 サービス提供時間9:00～16:00	
4	職員体制	管理者 1名、サービス管理責任者 1名、支援員 5名、准看護師 1名、運転手 2名	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	生活介護利用者・家族の想いを聞かせて頂き、支援をしていきます。	<p>○利用者の1日の様子を日誌に記し、ご家族と密に連絡を取りました。本人・保護者からの不安や悩みが強く感じられた場合は相談支援専門員に連絡を取り、必要に応じて支援会議や個別に面談を行う中で利用者や家族の想いを聴かせて頂き支援を行いました。</p> <p>○22名の利用者・保護者に対し年間 2回の面談と支援会議 17件、障害支援区分調査 7件を行いました。</p> <p>利用者それぞれに担当を設けモニタリング会議を行い、管理者が個別支援計画を作成しました。</p> <p>○作業や支援内容に変更があった際は、ご家庭に相談・報告の徹底を図りました。</p>	随時
1	活動内容の充実を図ります。	<p>○生活介護の「はたらくプログラム」に関しては、就労グループ・生活グループに分かれ、活動場所は3カ所で作業に取り組みました。</p> <p>○外部の事業所から請け負っている内職作業は、入荷量に波はあるものの、週 1回定期的に平均 2,500個の作業の仕入れ・納品をすることが出来ました。</p> <p>○新たにアパートの共有部分の清掃作業(5カ所を月に 1回づつ清掃)を行いました。廊下や階段などの共有部分をホウキで掃いたり、手すりを拭いたり、敷地内の草取りを行いました。最初の頃の利用者は、スタッフが声を掛けないとホウキで同じ所をずっと掃いていましたが、徐々に声を掛けなくても自分で掃く事が出来るようになりました。</p> <p>○法人内の清掃作業や玩具の消毒作業、外部事業所から、お清めの塩の袋詰め作業、利用者宅から金魚すくいのポイ作成・カレンダーの封入作業の依頼が来て納品を行いました。</p>	随時

		<p>○「くらす・あそぶプログラム」に関しては、スタッフ間でプログラムを担当し、スケジュールを立てる事により、スムーズな流れで活動が出来るようになりました。</p> <p>・外出: 上田城・象山神社・足湯 等</p> <p>利用者が増えた事と、大勢の中での活動が苦手な利用者がある事から、4つのグループに分かれ、別日に外出をする事で、安全や利用者の嗜好に配慮して活動が行えました。3月の外出活動は、電車に乗って長野駅に行く計画を立てましたが、新型コロナウイルスの影響で外出活動を自粛し中止にしました。</p> <p>・外食: 2ヶ月に1回(ファミリーレストラン)</p> <p>・調理実習: 2ヶ月に1回(ビーフシチュー・豚丼・けんちん汁)</p> <p>・DVD鑑賞: 月1~2回</p> <p>・創作活動: 月1~2回 カレンダー作り・絵画 等</p> <p>・アート活動: 毎月1回(講師を迎え)墨遊びや絵の具、クレヨンを使い絵画</p> <p>・公園でウォーキング活動: 10月~11月 月1~2回</p> <p>・音楽を聴きながらリラクゼーション: 月1~2回</p> <p>・ウィズでの体操: 月2回</p> <p>・図書館: 月1回</p>	10月~3月
		<p>○「健康管理」に関しては、毎日の検温・月1回体重測定・保健だより(熱中症・感染症予防)の制作を行いました。</p> <p>○利用者の身体状況の変化が見られた際は、保護者に連絡を行いました。また、利用者の平均体温を把握し、早退及び経過観察をする事で体調の悪化を未然に防ぐようにしました。</p>	随時
2	新規利用者に来て頂けるような活動を展開します。	<p>○養護学校・生徒の実習生を延べ2名受け入れました。</p> <p>○養護学校の進路指導主事に活動内容や空き状況を説明し、利用や実習の受け入れを行いました。</p> <p>○発達支援センター利用者に「はたらくプログラム」の体験をしてもらえよう場を作りました。</p> <p>○長野市障害福祉ネットへの参加をしました。</p>	随時
2	職員の支援技術向上を目指します。	<p>○ヒヤリハットや事故・苦情・気づきの中から、再発防止に努めるようにしました。各プログラムに向けてのシュミレーションを行う中で、スタッフ間の情報の共有方法について見直しを行いました。</p> <p>○ミーティングでは、個別支援計画の目標に基づいた支援の見直しや確認、情報共有や事故に関する事を中心に行いスタッフ間で統一した支援が出来るように努めました。</p> <p>○外部の研修に参加し、センター内で報告会を行いました(1回)。</p>	随時

(生活別紙)

1. 利用状況

障害種別

		期末利用者数	新規利用者数
H29	年度	22	
H30	年度	22	
R01	上半期	22	1
	下半期	22	
	年度	22	1

身体	知的	精神	発達
4	18	0	0
4	18	0	0
4	18	0	0
4	18	0	0

支援区分

		区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
H29	年度	1	7	9	5	4.8
H30	年度	1	9	8	4	4.7
R01	上半期	1	8	9	4	4.7
	下半期	1	8	9	4	4.7
	年度	1	8	9	4	4.7

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
人数	23	23	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
開所日	21	21	21	23	18	20	23	21	22	20	19	22	21
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
延人数	350	361	358	386	302	332	382	345	362	335	321	374	351
稼働率	83%	86%	85%	84%	84%	83%	83%	82%	82%	84%	84%	85%	84%

3. 送迎利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H30 延人数	523	548	534	535	484	449	580	532	472	449	456	463	502
R01 延人数	577	583	578	624	487	533	595	547	580	517	503	602	561

○分 析

○4月から養護学校を卒業された方 1名(今まで放課後利用)が利用開始となりました。5月に 1名が利用終了となり年度末の時点で20名の定員に対し22名の登録となっています。

○6月から月に1回、利用できる限度内で土曜日開所を始めました。土曜日開所は、平均 5.5人の利用者が利用をしました。

○送迎を希望される方が多くなり、90%の方が送迎を利用しています。新たに送迎を希望される方や新規に入られた方の送迎希望があり増加しました。

○活動面においては、利用者の増加に伴い利用者の人数に対し室内の手狭さがあるため、3グループに分けて活動を行いました。センターから外出する際には、一度に全員外出するのではなく、日にちをずらして活動を行い、4グループに分かれて外出をする事で、スタッフの混乱や利用者同士のトラブル減少に心掛けると共により安全に楽しく過ごして頂けるようにしました。

1	事業目的	障害のある方が、「働く」ことを通して、地域で暮らし社会に参加して行くことができるように、ひとりひとりの願いに応じた就労支援を行っていきます。就職支援・就職後のフォローアップまで、『自立したい』『はたらきたい』気持ちを、社会での役割を実感する中で、サポートしていきます。	
2	事業内容	障害福祉サービス	○就労移行支援 ○自立訓練(生活訓練) ○就労定着支援
		助成金・補助金	○職場適応援助者(ジョブコーチ支援・訪問型)
3	事業概要	定員:就労移行14名、自立訓練6名 開設時間:平日8:30-17:30 サービス提供時間9:00~16:00 施設外就労(老人福祉施設での清掃活動)を中心に、計画的に実施する座学を通して、一般企業内において『はたらく』をイメージできるよう年間を通して積極的に一般就労の機会を提供します。また、企業の方が障害福祉について理解を深められるよう伝えていくとともに、継続的な職場定着を支援致します。	
4	職員体制	○管理者1名 ○サービス管理責任者1名 ○就労支援員2名 ○生活支援員(就労移行)1名(自立訓練)4名 ○職業支援員2名 ○定着支援員3名	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	上半期実績報告	実施月
1	一般就労を目指します (目標就職者10名以上)	<b>【就労移行、自立訓練】</b> ○個別支援計画の内容について、2週間に1回振り返りを行い、ご本人が主体的に計画を立てられるよう一緒に考えました。振り返りを通して自分の強みや課題を知り、目標に向かって訓練に取り組むことが出来ました。始めは少ない出勤日数から始めていた方たちも、徐々に週5日来るようになってきました。	2/週
		<b>【就労移行】</b> ○年間計画を立て、計画的に見学・体験を実施しました。4月以降の新規の方には「働くイメージ作り」として、2年目の方は「モチベーションの向上」「就職に向けて」と利用者の目的に合わせて見学を行いました。見学に21か所行き、ご本人の希望により、8名の方が職場体験を行いました。	通年
		<b>【就労移行】</b> ○就職者6名	
		<b>【就労移行・自立訓練】</b> ○定期的な支援会議の実施 3か月毎のモニタリングに合わせて、ご本人・保護者・関係機関と情報共有を図りました。事業所や家庭での様子、就職に向けての課題等について確認が出来ました。	随時
		<b>【就労移行、自立訓練】</b> ○施設外就労として、老人ホームでの清掃に加え、今年度8月よりシーツ交換作業が追加契約となりました。それに伴い、西友での訓練は6月末で終了しています。施設内での作業ではなく、企業の中での訓練を行うことで、より働くことのイメージを膨らませ、社会の一員としての自覚や働く力を身に付けていくことができました。	通年

1	【就労移行・自立訓練】 一人ひとりのニーズに合わせた働く場を場所を提供します	<b>【就労移行、自立訓練】</b> ○単発の施設外就労として、ワックス・絨毯クリーニング作業を行いました。(2施設にて実施) 特殊機械を使つての作業体験ができ、経験の幅が広がる機会となりました。	7. 8月
		<b>【自立訓練】</b> ○「就職までの道のり」を再確認しながら、自己理解を深める取り組みを行いました。利用者自身がどうなりたいかを考え、その希望をかなえるための目標を自分で決めて活動することができました。新規利用者がいなかったため、2名での活動となりました。	通年
		<b>【就労移行、自立訓練】</b> ○土曜日開所として、社内学習会を開催しました。 ・新規利用者オリエンテーション…「働くとは」 ・生活面について…「スマホの使い方」「調理実習」 ・働くイメージ作り…「在職者・企業の方の話」 ・就職活動…「履歴書の書き方」「面接の受け方」他全28回	毎月
1	<b>【就労移行・就労定着】</b> 就職後も安心して働き続けることができるよう、丁寧なフォローアップをします (目標定着率80%以上)	○就職後は、他機関と連携を図りながら、安心して働くことが出来るよう支援しました。ジョブコーチ支援終了後、ご本人の希望に応じて、定着支援サービスによるフォローアップを行い、月1回の定期訪問または面談等による支援をしました。定着支援利用者は12名、内2名の方が離職し、定着率は83%となりました。	毎月
1	職員の就労支援技術の向上を目指します	○外部研修への参加を行いました。 ○内部研修への参加及び研修の報告会を実施しました。	随時
		○毎日夕方の申し送りと毎週水曜日にスタッフミーティングを実施しました。日々の様子や課題、スタッフの関わり方などについて振り返りました。司会は全員が持ち回りで行うことで、会議を進行し、皆の前で話をする機会としました。一人一人が発言しやすい雰囲気を作り、意見を出し合うことが出来ました。	毎週
1	新規利用者の確保に向けた活動を展開します (目標年間平均稼働率80%以上)	○周知活動として、関係機関会議での広報活動や研修会での活動報告、パンフレットの配布等を継続して行いました。また、将来的な新規利用に繋がるよう養護学校の実習を20名受け入れました。他機関からの紹介により、6名の見学、5名の体験の受け入れを行い、4名利用に繋がりました。年間稼働率は81%となりました。	通年

(就労別紙)

1. 利用状況(就労移行)

		実利用者数	新規利用者数	稼働率
H29	年度	25	14	73%
H30	年度	21	11	79%
R01	上半期	17	6	89%
	下半期	15	4	74%
	年度	21	10	81%

障害種別

身体	知的	精神	発達	その他
0	11	2	11	0
0	11	3	7	0
0	6	4	7	0
0	6	4	5	0
0	7	5	8	0

利用状況(自立訓練)

		実利用者数	新規利用者数	稼働率
R01	上半期	2	0	28%
	下半期	1	0	17%
	年度	2	0	22%

障害種別

身体	知的	精神	発達	その他
0	1	1	0	0
0	1	0	0	0

1) 就労移行 月別利用人数(定員14名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日	22	22	20	23	19	22	22	20	21	21	19	22	21.1
登録者	16	15	15	13	13	12	13	13	11	10	11	12	12.8
延人数	326	295	252	275	218	219	242	211	206	198	199	245	240.5
稼働率	106%	96%	90%	85%	82%	71%	79%	75%	70%	67%	75%	80%	81%

2) 自立訓練 月別利用人数(定員6名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日	22	22	20	23	19	21	22	20	21	21	19	22	21.0
登録者	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1.5
延人数	36	34	28	37	33	41	22	20	21	20	19	22	27.8
稼働率	27%	26%	23%	27%	29%	33%	17%	17%	17%	16%	17%	17%	22%

3) 利用経路 (内 自立訓練)

	上半期	下半期	年度
市町村	1	0	1
就業・生活支援センター	2(1)	4(1)	4(1)
ハローワーク	1	0	1
医療機関	0	0	0
教育機関	6	5	6
相談機関	5(1)	5	7
その他	1	1	1

○分析

【就労移行】

今年度は、利用者16名でのスタートでしたが、新規利用者5名、体調不良等による退所者が3名、就職者6名となり、現在利用者は12名となっています。欠席が多かった方も体力や自信を付けていくことで少しずつ出勤日数が増え、ほとんどの方が週5日出勤できるようになっています。そのため、利用者が就職により減少する中でも、稼働率の平均は8割となりました。相談支援事業所やデイケアなどに広報活動を行い、6名の方が見学し、4名が利用に繋がりました。就職者が出ることで下半期は利用者が減少するため、新規利用者の確保が課題となりました。次年度は、関係機関への訪問と合わせて、月1回の見学会を開催し、積極的に周知活動を行います。

【自立訓練】

自立訓練から就労移行にサービス変更される方がいたことや新規利用者がいなかったため、下半期は利用者が1名となり、稼働率は2割程度に留まりました。ご本人の思いを聴き、出来ることに着目して少しずつ自信を付けることで、不安を抱えながらも毎日出勤できました。次年度は、自立に向けたプロセスがより分かりやすいパンフレットを新たに作成し、デイケアや関係機関等に積極的に周知活動を行います。



## 2. 実習状況

		短期トレーニング	施設外支援	ジョブコーチ支援数
H29	年度	19	38	22
H30	年度	14	48	16
R01	上半期	5	15	9
	下半期	4	11	8
	年度	7	21	12

## 実習先(職種)

西友戸倉店(青果の加工、品出し)、クスリのアオキ南高田店・若宮店(商品の品出し、清掃)、丸金(エノキのケース巻き)、新町病院(居室・トイレの清掃)、マクドナルド(調理補助)、セリア(商品整理、品出し)、スタジオCOCO(クリーニング)
---

### ○分析

年間計画に沿って、見学・体験・実習を計画的に実施してきました。新規利用の方たちは、訓練や学習会を通して就職への意欲を高め、自分の希望する会社に見学に行けるよう準備してきました。年度末にかけてコロナウイルスの影響もあり、計画通りに実施できない状況があり、次年度に向けて計画を見直しています。

今年度は、JCが1名ということもあり、見学や実習の機会が例年より少なくなりましたが、ご本人が選んだ求人に見学・体験・実習を行えるよう丁寧に向き合うことが出来ました。また、就職後に課題が見つかるケースも多く、職場との情報共有を密に行うことと合わせて、ご本人・ご家族の思いを聴き、早期に対処していけるよう支援しました。就職者6名は、現在も安定して働き続けることが出来ています。引き続き、自主性やご本人の思いを大切にされた就職活動や就労支援を行います。

## 3. 就職状況

		就職者数	就職までの平均利用期間	就職に係る平均実習日数	定着支援サービス利用者数
H29	年度	11	1年3ヶ月	14	
H30	年度	8	1年2ヶ月	12	4
R01	上半期	3	1年8ヶ月	19	6
	下半期	3	1年3ヶ月	27	11
	年度	6	1年5ヶ月	23	12

## 就職先(職種)

タカ商(レトルト食品の製造)、西友戸倉店(青果の加工、品出し)、クスリのアオキ南高田店・若宮店(商品の品出し、清掃)、新町病院(清掃)、セリア青木島店(商品整理)
---

### ○分析

**【就労移行】**  
今年度の就職者は6名で、食品製造1名、小売業4名、医療機関1名となっています。企業によって、繰り返し見学・相談を重ねるも実習の受け入れに繋がらなかったり、雇用に至るまでに2か月実習を行う方もあり、就職に至るまでに期間を要するケースがありました。例年より就職者が少なくなりましたが、利用者主体で活動し、決めていくことを大切に活動することが出来ました。働きたいかどうかわからないと話していた利用者も訓練を重ねる中で、周りの役に立つ喜びを感じたり、就職する先輩たちの姿を見て、自分もこうなりたいと意欲を高め、就職にチャレンジすることが出来ています。

**【定着支援】**  
昨年度より開始した定着支援サービスは、12名の利用がありました。2年目より利用料が発生するため、契約を更新しなかった方が1名、職場での人間関係の課題があり、離職される方が2名となり、3名の方が利用終了となっています。安定して働いている方も少しずつ不安が蓄積されたり、些細なきっかけにより人間関係が崩れてしまう様子が見られました。複数のスタッフで支援を行ったり、不安材料が大きくなる前に早めに相談できるよう定期訪問を行う大切さを感じました。次年度も半年間のJC支援終了後、利用予定の方が3名います。引き続き、ご本人・ご家族・企業や関係機関と連携し、安心を提供していきます。

1	事業目的	○相手から話を聴き、必要に応じて基幹相談支援センターや関係機関と連携していくことで、本人の目的達成、課題解決にむけてサービス等利用計画、障害児支援利用計画を作成し、取り組むことを目的とします。また相談を通して見えてくる地域の課題を抽出し、解決に向けて取り組んでいきます。	
2	事業内容	相談支援事業	○指定特定相談支援事業、障害児相談支援事業
3	事業概要	開設時間平日9:00～18:00	
4	職員体制	相談支援専門員2人(専従2人)	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	基本相談支援を行います。	○基本相談はウィズの各センターを利用する方を中心に継続した支援を行いました。相談支援機関として客観的な視点をもてるようにしてきました。	随時
1	質の高い事業者を目指します。	○サービス受給者証の更新月に基本相談→サービス利用計画の作成を行ってきました。 ○モニタリングについては、法人内各事業所と連携しながら効率的に実施できるよう努めました。 ○各種研修に参加しました。(誰でも研修会、虐待防止権利擁護研修)	随時
1	関係機関との連携を強化します。	○基本相談、サービス利用を行っていく上で、必要に応じて家庭、行政、教育、福祉、その他機関との連携を行ってきました。 ○長野市障害ふくしネット相談支援事業所連絡会に執行部として参画しました。	随時

○利用状況

		障害児相談支援(子ども)			特定相談支援(大人)			相談支援専門員数
		登録者数	利用計画	モニタリング	登録者数	利用計画	モニタリング	
H29	年度	61	80	11	49	55	23	2(専従1、兼務1)
H30	年度	57	92	14	58	61	21	2(専従1、1月から専従1)
R01	年度	65	89	55	59	68	62	2(専従2)

○分析

登録者数については、サービスの新規利用時に増加し、サービスの終了時(主には進学や就職)に減少するといった状況にあります。ほぼ横ばいとなりました。

H31.1～専従の相談支援専門員が増員となり、定期的なモニタリングの実施に努めることで、件数は増加しました。長野市障害ふくしネット相談支援事業所連絡会に執行部として参画することで、行政他関係機関との連携も密接にとり、いち早く情報を収集し、その後のスムーズな連携にも役立てることができました。

東日本台風、コロナウイルス流行と予測のつかない事態が続いていますが、相談支援専門員として、できることを模索しながら相談支援に取り組みました。

引き続き、相談支援事業所としての質的向上を目指し、アンテナを高く、研鑽に励みます。

令和元年度 社会福祉法人ともいき会 長野圏域障害者就業・生活支援センター 年度末事業報告

1	事業目的	地域での生活や日中の活動ができるように、ひとりひとりの願いに応じて生活面や就職活動から職場実習、就職後のフォローアップまで就労の場の確保と安定した職業生活が実現できるよう支援します。また、関係機関や諸団体等の連携を図りながら各種社会資源を最大限に活用し、地域に根ざした就業・生活支援に関する総合的な役割を果たすとともに、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし・働き続けられるよう一役を担っていきます。
2	事業内容	雇用安定事業・生活支援事業 長野県短期トレーニング事業・長野県OJT推進員派遣事業
3	事業概要	開所時間:9:00～17:30、月～金
4	職員体制	所長兼主任就業支援ワーカー 1名 就業支援ワーカー 3名 主任職場定着支援ワーカー 1名 就業支援ワーカー(定着支援担当) 1名 生活支援ワーカー 1名 計7名
5	事業報告	

優先順位	事業目標	年度末実績報告	実施月
1	就職や生活面での不安や悩みを聞き、一緒に考えます。  新規登録者数:151名 合計:(634名)	登録者数634名(新規151名) 相談支援件数延べ:5617件 ・新規相談件数は140件でした。就業面の相談の裏に、生活面や体調面の不安がある方からの相談も多くありました。ご本人の想いを聴きながら、より良い自己決定ができるように支援をしました。就労準備性がまだ整っていない方の相談では、必要に応じて他機関と連携をしながら福祉サービスに繋げるなどの支援をしました。 ・年度途中で職員の入れ替えもありましたが、利用者や企業が不安にならないように他機関と連携をしながら丁寧な引継ぎを心がけました。必要に応じて行政とも情報を共有しながら支援を進めました。 ・初回～就職活動～職場実習～定着支援と、状況に応じてセンター内で役割分担をしているため、情報共有を密にするよう心がけました。	通年
1	職場開拓を実施します。  職場実習を行います。  職場実習斡旋数:113件 就職件数:74件	○実習件数:113件 ○就職件数:74件(うち21件 短期トレーニング活用) ・11事業所で初の職場実習を受け入れていただきました。年度当初から制度の利用ルールを改めたリーフレットを用いて実習制度の説明をすることによって、はじめて実習を行う企業の不安を取り除くことができました。関係機関にも統一した利用をしていただくことができました。 ・実習件数のうち半数程度は支援機関が入っているケースでしたが、年度を通してみると実習件数が少ない傾向にありました。 ・既存の企業で実数を受け入れていただくことも多くあり、実習担当以外の職員も支援に入ることにより、実習支援ができるようにし、実習生が安心して取り組めるように努めました。	通年

1	<p>職場定着支援の充実を図ります。</p> <p>定着率:88%</p>	<p>○定着職場訪問件数:919件 うち精神障害者に対する職場訪問の割合:43.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な定着訪問を心がけ、訪問時にご本人や職場の方から直接不安なこと等を伺い、必要に応じて面談等を行うことにより安定した勤務ができるよう支援をしました。</li> <li>・職員が職場に訪問することにより、職場担当者も安心される点も多く見受けられる傾向が強いため、訪問先周辺の定着支援も心がけました。</li> <li>・チャレンジ雇用で採用された方には、県の活躍サポーターと役割分担をしながら、主に転職活動の支援として関わりました。</li> </ul> <p>○主任職場定着支援件数:24人(実人数)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すでに在職をしている方について企業から相談に繋がるケースがありました。ご本人の想いを聴きながら、企業との連携をとって拗らせないように配慮をしながら支援をしました。早めの支援をすることで不安の芽を取り除くように支援をすることを心がけました。</li> </ul>	通年
1	<p>圏域内のネットワークの構築を目指します。</p>	<p>○生活面や他機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談内容に応じて他機関への介入依頼をしました。特に市委託相談員等には相互に相談をしながら支援を行いました。</li> <li>・自立支援協議会や各研修等への参加を通じて、他機関と顔の見える関係の構築を図りました。中小企業の担当者支援として長野市のしごと部会と共催で企業懇談会を開催しました。企業と福祉の関係者同士が情報交換をする場を作ることができました。</li> <li>・学卒の移行支援会議では各学校の教員と連携を図り、情報共有をしました。</li> </ul>	随時
1	<p>就職希望者や在職者への講座や交流会を行います。</p>	<p>○在職者交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月、7月、11月、1月の年4回実施しました。3回目は就職3年目までの方を対象に交通安全について講師を呼んでお話していただきました。4回目は就職4年目以上の方を対象に健康についてクイズやグループトークを行いました。3・4回目はピアサポート事業として求職者にも参加していただき、お互いにより刺激になっていました。</li> </ul> <p>○就職ミニ講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・求職者に対して就職面接会に向けて応募書類や面接についての講座と、自分の障害特性を伝えられるように整理する講座を4回シリーズで開催しました。年々多くの方に参加してもらっています。</li> </ul>	随時
2	<p>職員の就労・生活支援技術の向上を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日17時～、毎週水曜日にミーティングを行い、担当しているケースの進捗状況や課題について報告し情報共有をしました。互いに意見を出し合い、ご本人にとってより良い支援を模索しています。日々の意見交換を通じて、職員1人ひとりの支援力の向上を図りました。</li> <li>・他機関主催の研修に参加して、支援における知識向上に努めました。</li> <li>・8月、9月にセンターの業務について、福祉サービスについての内容で2回センター内研修を行いました。定期的に研修を開き職員の技術向上に繋げていきます。</li> </ul>	随時

(長野圏域障害者就業・生活支援センター 別紙)

1. 利用状況

障害種別・就業別

		期末利用者数	新規利用者数
H29	年度	634	130
H30	年度	616	136
R01	上半期	560	77
	下半期	634	74
	年度	634	151

	身体		知的		精神	その他	合計
		重度		重度			
在職中	31	19	223	81	137	6	397
求職中	12	0	46	12	137	8	203
その他	2	0	30	0	2	0	34
合計	45	19	299	93	276	14	634

1) 出身地域別

	～上半期	下半期	合計
長野市	447	72	519
同一圏域内	110	2	112
その他	3	0	3

2) 新規登録者利用経路

	上半期	下半期	年度計
ハローワーク	10	4	14
職業センター	1	0	1
特別支援学校	5	28	33
就労移行	16	14	30
福祉施設	9	10	19
行政	7	2	9
直接利用	6	5	11
その他	23	11	34
合計	77	74	151

3) 相談・支援(システム上)

		件数
H29	年度	11,191
H30	年度	7,170
R01	上半期	2,903
	下半期	2,714
	年度	5,617

※同一圏域内

須坂市、千曲市、信濃町、飯綱町、小布施町、高山村、小川村、坂城町

4) 月別利用人数(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
230	202	183	207	184	172	194	189	172	200	163	197	2293

○分析

・新規相談について  
 昨年度下半期に就労移行より職場実習の相談が多くあったことの反動で、今年度は就労移行からの新規の相談数は減少しました。圏域内3ヶ所のハローワークの担当者交代により昨年度よりも職場実習の相談は減り、就職活動の支援を目的とする相談が多くありました。市町村委託の相談員や相談支援専門員などの福祉関係者からは、体調や生活面が整っておらず就職活動の前段階から支援が必要だが、ご本人が一般就労を希望しているという相談が多くありました。今年度の新規相談は140件でした。就職希望の相談の背景に生活面の悩みを抱えている、就労準備性が整っていない方の相談、職場実習に向けた相談など多岐にわたりました。ここ数年、就職の支援＝当センターということで認知されてきていますが、1つ1つのケースが就職までの課題が多く、スピード感をもって支援ができないという課題が挙げられています。

・登録者について  
 昨年度末に登録者の整理を行い、長期間にわたり相談がない方や他機関に繋がっている方を133名抹消し、今年度は483名から開始しました。過去2年の新規登録者の平均は133名で、今年度は151名の方が新規に登録をしました。

・生活面について  
 福祉サービス利用に繋がった相談は12件(就労移行3件、就労継続B型12件)です。生活支援ワーカーによる相談については、「就労(34.39%)」、「不安解消・情緒安定(13.45%)」、「家族関係・人間関係(9.61%)」の相談が多い状況にありました。生活面の課題を持ちながらも就労についての相談が増えているため、福祉事業所の見学など関係機関と役割分担をして連携を図りながら支援をしました。

・相談・支援について  
 3)について…職員の入替わりがあったこと、相談支援件数の計上方法が変更になったこともあり、昨年度よりも減少をしています(昨年比:-1500件程度)。4)では、月別相談者の実人数を記載しました。毎月200名前後の相談者がいました。

## 2. 実習状況

		実習	職業準備訓練	実習からの就職率
H29	年度	134	8	41%
H30	年度	164	2	43%
R01	上半期	49	2	27%
	下半期	64	3	17%
	年度	113	5	19%

### ○分析

過去2年間の平均実習数は149件で、今年度は113件でした。昨年度の実習件数が多かったこともあり、今年度は実習の実習件数は大幅に減少しました(昨年比:-50件程度)。センターのみで支援をしている方の実人数は35名で就労移行・B型が関わっている方の実人数は27名と関係機関からの実習依頼が減少していることも要因として考えられます。過去2年間の実人数に対しての就職率は42%で、今年度は19%と割合は低下しました。1人が同じ企業で複数回実習を行っていること、体験を目的とした実習の利用が多かったことが関係していると考えられます。今年度は新たに11ヶ所の企業で職場実習の受け入れに応じて頂きました。

## 3. 就職状況

### 主任職場定着支援ワーカーの相談状況(支援件数)

		就職者数	定着職場訪問
H29	年度	70	772
H30	年度	77	1,004
R01	上半期	53	512
	下半期	21	407
	年度	74	919

	身体		知的		精神	その他	合計
		重度		重度			
業務内容	1	0	23	3	31	3	58
対人関係	2	0	29	4	32	2	65
生活面	0	0	23	9	25	0	48
その他	0	0	6	0	0	0	6
合計	3	0	81	16	88	5	177

### ○分析

#### ・就職について

過去2年間の平均就職件数73件に対して、今年度は74件でした。所属機関がなく、当センターのみに相談している求職者の就職件数は、昨年同様55名でした。短期トレーニングを含む職場実習から23名が就職につながりました。今年度は県のチャレンジ雇用も含めた官公庁への就職者が15名と例年よりも多くなりました。センターとしてはチャレンジ雇用中の転職活動の支援を主に担当しており、職場定着を担当する県の活躍サポーターやハローワークと連携して支援をしました。

#### ・職場定着訪問について

過去2年間の平均職場定着訪問件数は、888件で、今年度は919件でした。10月の台風19号や年度末の新型コロナウイルスの影響で在職者や企業が不安にならないように、職場訪問のみでなく電話連絡など必要に応じた定着支援を心がけました。厚労省は精神障害者の定着支援訪問目標率を全体の30%としていますが、今年度は43.5%(400件)でした。年々精神障害者の相談が増えており、職場定着訪問の重要性が示唆されます。電話相談や面談のニーズも高く、訪問のみでなく柔軟に対応をするよう心がけました。

#### ・定着支援事業との連携について

定着支援事業からの引継ぎは4件ありました。事前に登録面談してから就労移行支援事業所と企業へ訪問をすることでスムーズに引継ぎができるように心がけました。事業開始初年度だったので今年度の引継ぎはあまり多くありませんでしたが、今後件数が増えることが予想されるため、スムーズに引継ぎができるように事業所と連携をしていく予定です。

#### 【主任職場定着支援担当について】

支援件数の計上方法と担当者が変更になったため支援件数は増加しています。

困難事例の支援対象の実人数は34名のうち離職は17名でした。大型連休後の生活の乱れや意欲の低下については早期に関係機関と連携を図りながら、企業での配置換えや勤務時間の見直しをしていただく等の対応をしました。支援対象者の半数が離職に至りましたが、利用者・企業の双方が納得のいく形で離職ができるよう支援をしました。また、すでに在職をしている方について企業から相談を受けるケースもありました(17件)。センターの役割が周知されていくにつれて今後も企業からの相談が増えていくことが予想されるため、より役割の重要性が増すことが考えられます。